

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：ゆめの樹保育園ほ도가や	種別：認可保育所
代表者氏名：佐々木真由美	定員（利用人数）：60名（利用者：53名）
所在地：〒240-0012 横浜市保土ヶ谷区月見台41-22	
TEL：045-459-5108	
ホームページ：yumenoki-hodogaya@clock.ocn.ne.jp	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2016年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人フィロス	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員： 10名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士：14名
	園長：1名 保育補助：3名
	看護師：1名 栄養士：3名
施設・設備の概要	（居室数）クラス室：6、トイレ：4、調理室・厨房：1、事務室：1 他 （設備等）木造二階建 ・屋外遊技場（園庭）

③理念・基本方針

◆保育理念

子どもたちの最善の利益を最優先し、養護と教育が一体となった保育を進めます。

◆保育方針

すこやかな心身と生きる力の素地を育みます。

◆保育目標

「見守る」「ほめる」「対話する」ことを基本に、

- ① 自己肯定感のある子
- ② 挨拶ができる子
- ③ 思いっきり遊べる子
- ④ 自分の気持ちを伝えられる子
- ⑤ 自分との違いも認められる子
- ⑥ 自己解決ができる子

●保護者や保育士が子どもたち一人ひとりにあふれんばかりの愛情をもって関わり、十分に認めることにより、子どもたちには自信と自己肯定感が芽生えます。こうした自己肯定感や自身によって、子どもたちにはお友達や他人へのいたわりの気持ちが芽生えます。基本的な生活習慣を身につけ、自分の言いたいことを言葉で伝え、相手のいうことを理解できるよう、愛情をたっぷり注いで自立の心を育みます。

④施設・事業所の特徴的な取組

特徴1 思いっきり遊ぶ

乳幼児期の子どもたちは遊びのなかで育ちます。保育士やお友達との関わりを通して、たくさんことに気づきます。遊びを通し、「感性・積極性・集中力・運動能力・協調性・意欲」などバランスよく身につけ、年齢・月齢に合わせた遊びを十分に楽しみます。

1. 「園庭」「散歩」で 2. 「自然」と 3. 「手や指先」と 4. 「からだ」をつかって 5. 「目で見て」 7. 「ことば」で 8. 「かず」で 9. 「リトミック」であそぶ

特徴2 土台をつくる

1. 生活する力

①あいさつが気持ちよくできる ②はいと気持ちよく返事をする ③くつをそろえて脱ぐ

④立腰（りつよう）背筋を伸ばして正しい姿勢で座る ⑤食事マナー ⑥ルールを守る

2. 基本的な生活習慣の確立

①食事 ②排泄 ③睡眠 ④衣服着脱 ⑤清潔 ⑥お手伝い

3. 五感を磨く

①視覚 ②聴覚 ③触覚 ④味覚 ⑤臭覚 「みる・きく・さわる」を中心に五感に働きかけることで、自ら進んで「やってみたい」という気持ちを引き出します。

特徴3 あふれんばかりの愛情を注ぐ

■一人ひとりをみつめる

抱きしめるということは愛情を伝える一番の方法です。「大事にされたい」「ほめて欲しい」「認めてほしい」という内在した欲求にこたえ、まずは無条件に許容します。

■認める＝「おうむがえし」することが 子どもを「認める」「受け入れる」第一歩です。

■褒める 一緒に喜び、ほめることで子どもたちには達成感が芽生えます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年9月14日（契約日） ～ 令和3年3月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) 子どもの自主性が芽生えるように働きかけをしています

保育園では、子ども達一人ひとりの成長にあわせた保育を目指しています。特に0～2歳児は毎月の個別指導計画に加え、週案も個別に作成し、子ども達一人ひとりの成長を丁寧に行っています。子ども達への声かけも、子ども自身が答えにたどり着くよう、考えられるように努めています。その為に職員同士も連絡を怠ることのないよう、毎日の昼

礼には保育士のほか看護師、栄養士も参加して情報の共有を行っています。
保護者とのやり取りも複写式の連絡帳を使用し、共に育てていくことの大切さを大事にしています。幼児クラスもおたより帳を使用し、保護者と連絡を密にとるよう心掛けています。

2) 自己肯定感を育む保育に取り組んでいます

園長、主任のリーダーシップのもと、保育において、肯定的な言葉のやり取りを大事にし、子ども一人ひとりが認められているという思いを感じ、意欲的に活動に取り組めるよう取り組んでいます。職員はことば掛けの時は否定的な表現は避け、肯定的に話しかけるよう努めています。子どもたちを褒めること・認めることを通して、自己肯定感が育まれるよう心がけています。

◇改善を求められる点

1) 人材育成目標「期待する職員像等」の明文化

人材育成は、研修活動等積極的に取り組まれています。が、「期待する職員像等」が、文章化されていません。明文化して周知し職員自らが将来の姿を描きキャリアアップへの意欲を引き出す仕組みづくりが期待されます。

また、現在使用している「人事考課シート兼自己評価票」の質問事項及び表現が職員のモラルアップに繋がる内容となっていません。「コンピテンシー評価」等の導入により、保育の仕事のプロセスを明確にし、どんな能力が不足しているかが職員自ら把握できるようなシートの見直しが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回第三者評価を開園して初めて受審したことによって、職員同士の自己評価を行ったことで、園運営の共通認識が深まり保育の質の向上に繋げていく機会となりました。

園として取り組むべき課題を知ることができ、令和3年度より一つひとつの課題を目標として公表し、質の向上につなげていきます。

法人に対して、今回の園の結果を報告し、社会福祉法人として求められているものを共通認識して改善と質の向上に取り組みます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり